

# 株式会社スタジオスポビー「SPOBY」

## 実証概要

スマートフォンアプリ「SPOBY」を活用し、移動による脱炭素に高砂市民を中心とした参加者で挑戦する「テクリンエコウォークチャレンジ」を7/28～11/11に実施。  
参加者は脱炭素行動に応じてポイントを獲得できる。獲得したポイントは協賛事業者の商品と交換できるようにすることで、脱炭素行動を促す。

### ▼プロジェクト周知ポスター

参加者がアプリ上で獲得した特典をお渡しする特典交換会を

- 9/16(土)・17(日) @たかさご万灯祭
- 11/11(日) @高砂市役所食堂の2回に分けて実施。

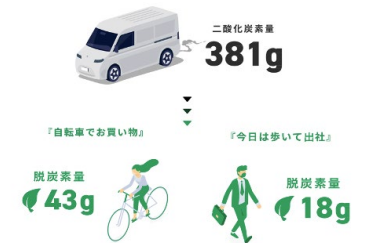
※最後のページに当日の様子と参加者からの声を記載しております。



### ▼SPOBYの機能について

#### ①脱炭素計測

移動経路と手段を自動検知し、徒歩や自転車移動による脱炭素量や活動量がアプリで可視化される。



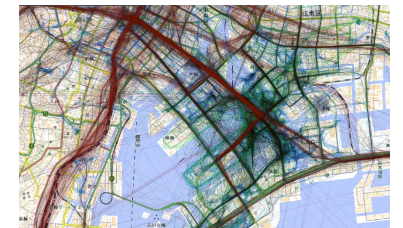
#### ②特典交換

脱炭素や活動量はアプリ内でポイント化され、協賛企業の商品と交換することが可能。



#### ③詳細人流データの取得

性別、居住区、移動手段等、様々な属性ごとの人流データ取得が可能のため、実態把握、分析に活用可能。



# 株式会社スタジオスポビー「SPOBY」

## 実証目標

### ▼定量目標

	項目	指標	備考
1	参加人数	700名	アプリ内コミュニティ参加ユーザー数
2	継続率 (MAU)	70%	7月～11月の月毎のアクティブユーザーの平均値
3	脱炭素量	2,450kg	期間内 (7/28～11/11) の脱炭素量
4	平均歩数増加量	600歩	7月と11月の平均歩数の差分
5	協賛事業者参画数	5社	アプリに特典を掲載した企業数

定量目標を達成するだけでなく、徒歩・自転車移動が増加したかということも検証する。

### ▼定性目標

取得できる様々なデータから見える「高砂市らしさ・特筆すべき点」を検証し把握する。

#### 【具体的な検証例】

- 参加する参加者属性が他自治体と比べてどのような相違が見られるかを把握し、高砂市の特徴を考察する。
- 計測できる一人あたりの脱炭素量が他自治体と比べ、どのような差分が出るのか調査する。

# 株式会社スタジオスポビ「SPOBY」

## 実証結果

### ▼定量目標

	項目	指標	結果	達成度
1	参加人数	700名	667名	95%
2	継続率 (MAU)	70%	78%	111%
3	脱炭素量	2,450kg	3,192kg	130%
4	平均歩数増加量	600歩	135歩	23%
5	協賛事業者参画数	5社	12社	240%

### ▼住居・就業場所について

分類	高砂市	政令指定都市	地方中核市	中山間地域
市内在住市内就業	47%	87%	82%	56%
市内在住市外就業	19%	7%	3%	4%
市外在住市内就業	14%	3%	5%	6%
市外在住市外就業	20%	3%	10%	34%

播磨臨海工業地帯の中核都市である高砂市は就業による昼間人口流出入率が高く、市内在住市内就業者率が他自治体に比べ低いことが顕著に表れている。中山間地域の市外在住市外就業者率が高いが、当該地域は地方中核市と隣接しており、それが主な要因と考えられる。高砂市も姫路市に隣接しているために当該割合が高い傾向にあると考えられ、近隣市と連携して関係人口を巻き込んだ施策を実施しやすい立地と言える。

### ▼一人あたりの脱炭素量について

項目	高砂市	政令指定都市	地方中核市	中山間地域
脱炭素量(g/人・月)	1,367	1,117	1,087	899

脱炭素量は、徒歩または自転車で直線距離で750m以上移動した場合に、代替される乗り物手段をアプリ側で自動判定し、計算される仕組みである。乗り物ごとのCO2排出係数は下記のようになるため、判定された乗り物手段について自動車の割合が高い場合、脱炭素量も大きくなる。

■CO2排出係数 自動車：242g バス：101g 電車：28g

項目	高砂市	政令指定都市	地方中核市	中山間地域
自動車	77%	35%	39%	49%
バス	17%	49%	51%	40%
電車	6%	16%	10%	11%

高砂市では他自治体に比べバスや電車の割合が低く、自動車の判定が大きな割合を占める結果となった。

自動車が判定されるのは、その経路の付近に公共交通機関がない場合になる。高砂市では東西の移動に関してはJRと山陽電鉄の交通網が発達している一方、南北の交通網に課題があると伺っていたが、それが数値として現れた結果になったと考えられる。

# 株式会社スタジオスポビ「SPOBY」

## 評価

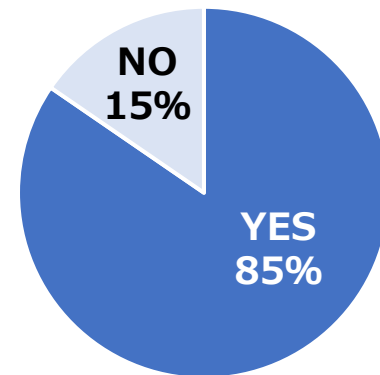
活動量の増加は目標を下回る結果となったが、他の項目については概ね目標達成となり、中でも協賛企業の巻き込みが最も成果を残せた。播磨臨海地域には企業が多く、社会課題に対して感度が高いことが当プロジェクトを通して窺えたので、今後の官民連携での取り組みにも期待ができる。

また、脱炭素量についても目標を大きく上回ることができた。徒歩・自転車一回あたりの平均移動距離比較のデータより、徒歩・自転車利用が促進されたことが窺え、アンケート調査では「少しの距離であれば乗り物ではなく徒歩や自転車で歩く機会が増えたか」「環境保全の意識は高まったか」という質問に対し「YES」の回答が8割以上だった。(N=175)。以上より当プロジェクトを通して、参加者の行動変容を促進する効果が発揮されたことが窺えた。一方で、交換会実施後にアクティブユーザーが減少することも浮かび上がったので、継続実施の際には特典を掲載し続ける運用を検討する。

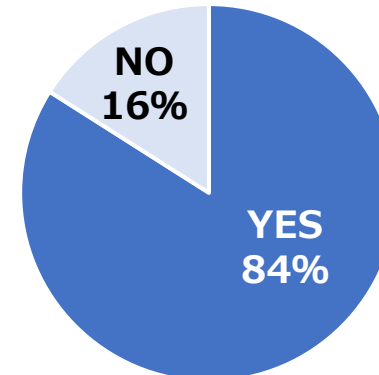
### ▼徒歩・自転車一回あたりの平均移動距離比較 ※単位：m (メートル)

種別	7/28~8/26 (事業開始後30日間)	10/13~11/11 (事業終了前30日間)	差分
徒歩	491	514	22
自転車	1,845	1,973	128

### ▼乗り物代替移動が増えたか



### ▼環境保全の意識は高まったか



### ▼アクティブユーザー推移





# 株式会社スタジオスポビー「SPOBY」

## 交換会実施風景



### ▼当日の様子

- 全員マイバックを持参していただいた。
- 来場された方の年齢層は10～60代の方で、30～40代が多い印象であった。
- 「仕事で歩くことが多いので、ポイントはすぐに貯まりました！」という声を複数いただいた。
- シューズの抽選が当たらず飾ってあるシューズを見て残念がる方もいた。
- 一人が複数の特典を獲得されているケースが散見された。
- 11/11の特典交換会では「第3弾はあるか？」「今回は最後の企画か？」「残ったポイントはどうすれば良いか？」という質問を多くいただいた。
- 獲得方法が理解できておらず、獲得したと思って特典を受け取りに来られた方もいた。